

授業概要

教職の意義と役割や期待される教師像について理解する。幼稚園、小学校における教諭の職務と実際を制度面も含めて理解する。日本だけではなく、海外での教育等も視座に入れて、子ども理解を深め、今後の望ましい教師の有り方について学ぶ。また、教師のストレスについての知識を得て対処法を学ぶ。職業選択の視点からは、他の職業についても見識を深める。これらのもと、自分なりの教師像を構築し、今後の自分の努力目標を明確にする。

授業計画

第1回	ガイダンス
第2回	教職の意義と教師の役割 (1)
第3回	教職の意義と教師の役割 (2)
第4回	教師論
第5回	幼児教育論
第6回	生徒指導 1
第7回	生徒指導 2
第8回	教師のストレスと対応
第9回	教職以外の職業 職業選択について 特別講師による講話
第10回	歴史の中の教師
第11回	現場教師の授業法から学ぶ
第12回	授業の創り方
第13回	学習指導要領理解
第14回	保護者・地域とのかかわり
第15回	教師の一日
第16回	定期試験

到達目標

教職の意義や教師の役割を理解し、教員として求められる資質能力について確認するとともに、海外の教育や教育の歴史についても幅広く学ぶ。これらを元に、自分の目指す教師像を明確にし、今後の努力課題にする。

履修上の注意

数回はグループワークも取り入れます。自分なりに考え、積極的な受講態度を期待します。基本的に全回出席してください。遅刻は3回で1回の欠席。20分以上の遅刻は欠席扱いです。授業の3分の2以上の出席で評価の対象になります。

予習復習

復習として、授業に関連することを、ネットだけではなく、本で調べる習慣をつけてください。不明な点は、早いうちに授業後、またはオフィスアワーに質問に来ること。

評価方法

試験 50%、発表 30%、授業態度 20%

テキスト

プリントを用意します。

授業概要

第8回目までは、主として過去の時代背景との関連から教職の意義を講義する。第9回目以降は、今日の教職の意義を講義する。第14回と第15回は、教職と本授業の関連性を確認しつつ、全授業を振り返る作業を行う。授業を通して、教職の意義・教職を規定する法制度・服務等を網羅的に説明し、教職とは何かを理解できるようにする。

授業計画

第1回	授業ガイダンス 授業内容の説明・授業方法の説明
第2回	教職の意義①（教員養成は、なぜ大学で行われるのか）
第3回	歴史の中の教師像①（森有礼の教師像と時代背景）
第4回	歴史の中の教師像②（アメリカ教育使節団の教師像と時代背景）
第5回	歴史の中の教師像③（第三の教育改革以後の教師像と時代背景）
第6回	小説の中の教師像
第7回	ドラマの中の教師像
第8回	教師に求められる資質能力（戦後の答申に示された資質能力）
第9回	教職の意義②（教職の専門性及び専門職性とは何か）
第10回	教職の意義③（養成、採用、研修の意義）
第11回	学校の中の教師（校務分掌の機能、教育委員会の管理機能）
第12回	社会の中の教師（保護者との連携、学校と地域の連携、労働者としての教師）
第13回	法制度と教師（教免法、地公法、教特法、地教行法、中確法等に規定される教師）
第14回	未来の教師像（これから必要となる資質能力は何か）
第15回	教職とは何か（授業内容と自分が目指す「教職」との比較）
第16回	筆記試験

到達目標

「職業としての教師」という観点を身に付けることを本授業の目的とする。「先生」という漠然とした概念が、「教師」「教職」「教員」「教諭」という明確な名称から説明することができるようになること、教師生徒関係からだけではなく、組織の中に教師を位置づけることができるようになること、これが到達目標である。

履修上の注意

第1回のガイダンス授業の際に、授業方法・評価方法・予習・復習について詳細に説明する。成績評価に関わる内容であるため必ず出席すること。なお、第1回目の授業に出席できない特別な理由がある場合（あった場合）には申し出て、配布資料を必ず受け取ること。

予習復習

予習：授業の最後に示された次回の内容について、参考文献等を読んでおくこと。

復習：毎回の授業で出題された課題を確認し、理解ができていない場合には、プリントに示されている参考文献等をもう一度確認しておくこと。

評価方法

授業への参加態度・提出物の内容・学期末のテスト、これらを総合して判断する。

教職に関する科目のため、成績評価は厳しい態度で行っている。注意すること。

なお、履修者の状況によっては中間テストを行う場合がある。詳細は、第1回のガイダンス授業で説明する。

テキスト

毎回プリントを配布する。